はと時計 5月号　2026年 5月7日発行

南　極

今年、気候や環境の変化を調べるために南極で続けられてきた観測活動が、70周年を迎えます。
　みなさんが学校で勉強しているとき、南極ではペンギンが子育てをしていたり、観測隊が雪の中で調査をしていたり。そんな南極の世界を、本を通して少しのぞいてみませんか。

松蔭中高図書館　担当　福永
library@shoin-jhs.ac.jp

『ペンギン空を飛ぶ』　エクスナレッジ　2013

　タイトルのとおり、“飛んでいる” 瞬間のペンギンを集めた写真集。ジャンプしたり、サーフィンしたり、飛ぶのを見ているだけのペンギンも。次から次へと出てくる飛ぶ姿は、見ているだけで楽しくなります。

『みんなが知りたい！北極・南極のひみつ』「北極・南極のひみつ」編集室著　メイツユニバーサルコンテンツ　2023

　それぞれ地球のはしにある北極と南極。どちらが寒いと思いますか？正解は南極！年間平均気温で比べると、北極はマイナス20℃、南極はマイナス50℃。南極のほうが、かなりきびしい寒さですね。
　この本では「火星と環境が似ている雪のない地帯」など、南極の不思議がたくさん紹介されています。

『南極観測隊のしごと　観測隊員の選考から暮らしまで』　国立極地研究所南極観測センター編　成山堂書店　2014

　南極では、どんな人たちが働いているのでしょうか？観測隊は、宇宙や気象などの観測や研究を行う「観測系」と、それを支える「設営系」に分かれています。
　建物の建設や輸送など、設営系の仕事は観測活動に欠かせません。観測隊には、研究者だけでなく、土木や機械、医師、調理などさまざまな職種の人たちが関わっています。

『南極の食卓　女性料理人が極限の地で見つけた暮らしの知恵』渡貫淳子著　家の光協会　2023

　著者は、調理隊員として1年間、毎日南極で30人分の食事を作りました。朝昼晩だけでなく、おやつや夜食、季節のイベントご飯もあります。限られた食材をやりくりしながら料理をするエピソードは、読んでいてとてもおもしろいです。
　南極での工夫をまとめた著者の本**『私たちの暮らしに生かせる南極レシピ』（家の光協会　2025）**もあり、料理の写真は、どれもおいしそう！

『南極のたどりつき方　キミも南極に学ぼう』　酒井誠至著　文芸社　2024

　理科の先生が、夢をかなえて南極観測隊に！「同行者」という立場で参加した著者は、授業のネタを集めるため昭和基地を歩き回り、観測隊の仕事を間近で観察。そこで見つけた南極の魅力が話し言葉でやさしく語られていて、気軽に読める1冊です。

雑誌
『ニュートン』2026年4月号～　ニュートンプレス

　67次南極地域観測隊に同行した朝日新聞の記者が、南極から最新の様子をレポート。今まさに行われている観測の現場を知ることができます。

『南極犬物語』　綾野まさる著　ハート出版　2024

　日本の南極観測隊が初めて南極へ行くことになったとき、ソリを引く「働く犬」として、カラフト犬を連れていくことになりました。雪原で、隊員と力を合わせて働いた犬たち。
　その後も第２次越冬隊員とともに南極で暮らすはずでしたが、悪天候にみまわれ、15頭の犬たちだけが南極に置き去りにされることになり….。

『クマムシ調査隊、南極を行く！』　鈴木忠著　岩波ジュニア新書　2019

　クマムシを研究している著者が、夏隊員（＝南極の夏の期間、約2か月間南極で活動する隊員。冬を越して１年間滞在するのは越冬隊員）として過ごした日々を、ユーモアたっぷりに書いた本です。ちなみに、クマムシとは、体長が1ミリにも満たないとても小さな動物。顕微鏡で見る8本の足で歩く姿は、カワイイそうですよ。

『ペンギンにさよならをいう方法』　ヘイゼル・プライア著　東京創元社　2025

　86歳のヴェロニカは、ペンギンに会いに南極へ！
莫大な財産をペンギンに遺すことにしたヴェロニカは、自分の目で確かめるために、遺産を託す南極の研究センターを訪れることにしました。
　研究員たちは、過酷な環境の南極へ高齢のヴェロニカがやってくることには反対しますが、彼女は強引に南極へ降り立ち….。ペンギンの魅力とヴェロニカの行動力に引き込まれる小説です。

5月 2026

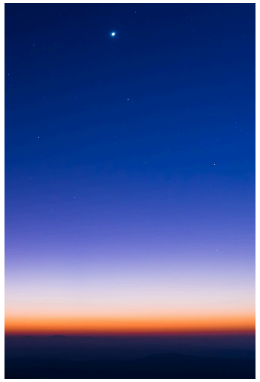
はと時計　B面

2026年5月7日発行　282号　担当：眞鍋

リクエスト図書紹介

『神の蝶、舞う果て』上橋菜穂子著　講談社　2026

ファンタジーの世界の物語です。生きていくのに必要なことは、どこにいても変わりがないのだと気づかされます。そして、人を信じること、未来を安易にあきらめないことも。この物語は『精霊の守り人』シリーズを執筆されていた頃に生まれたと知りました。雑誌掲載から長い月日を経て書籍化されたとのこと。素敵な物語に出会えることに幸せを感じます。Y.Y先生



『暁星』湊かなえ著　双葉社　2025

龍の絵に惹かれました。いわゆる「パケ買い」というところでしょうか。どうしても忘れられなくて、読んでみたいと思い、図書館にリクエストした次第です。暁星とは、明け方の空に輝く金星のこと。そらは夜明け前がいちばん暗いといわれます。この物語を読み始めてしばらく、いや、ずっと苦しかったです。主人公たち（あえて複数形にします）がそれぞれの暁星を見るまでは決して表面的にはハッピーエンドではないかもしれませんが、独語の安堵感があることに救われました。そしてそ余韻が続いています。Y.Y先生

宗教週間のイベントお知らせ　6月1日（月）～8日（月）

絵本ボランティア

アジアのこどもの本が少ない国に、絵本の翻訳シールを貼って送ります。切って貼るだけなので手ぶらで参加してください。

チャリティブックセール

図書館で使わなくなった雑誌や絵本、図書を1冊10円以上の寄付でお分けします。昨年、気になった雑誌がある人はぜひ来てみてください。

新着雑誌＆図書のご案内

理科の先生の希望で「NEWTON」とは別に「子供の科学」を購読することになりました。
4月号は「超危険生物のパワー」
5月号は「おもしろ算数パズル」特集です。
科学に興味のあるみんな、必見です！

『傘のさし方がわからない』岸田奈美著　小学館文庫　2026

歩いていたら30分で6人から「ケーキ屋知りませんか」と聞かれた話、ルンバにスズメバチを食べさせた話、スマホの画面が割れていたから取材された話…笑わせながら泣かせる、癒されるエッセイ、絶好調です。

『めざせ、イグ・ノーベル賞！？おもしろ自由研究』
①人体　②生きもの　③社会・科学
沼田晶弘監修　汐文社　2022

イグ・ノーベル賞とは人々を笑わせ、考えさせた研究や出来事に与えられる賞です。「ポテトチップスは音がするとよりおいしく感じる」「ハトに人気のない銅像」「ガムの味で脳の働きが違う」などイグノーベル賞を参考にテーマを決めて仮説を立て、実験してみない？笑える、けれどまじめな提案がつまった自由研究の本です。

2026年度全国読書感想文コンクール課題図書　（すべて貸出可能）

中学校の部

『君の火がゆらめいている』落合由佳作　講談社　2025
『チーム・テスならだいじょうぶ』カービー・ラーソン＆クイン・ワイアット作　鈴木出版　2025
『リュウグウの砂に挑む　チームで小惑星のサンプルを分析』伊藤元雄著　くもん出版　2025

高等学校の部

『スウィッシュ！』藤ノ木優著　徳間書店　2025
『ノアハム・ガーデンズの家』ペネロピ・ライヴリー著　ゴブリン書房　2025
『平和のうぶごえ　「原爆の子」として生きた８０年』早志百合子著　毎日新聞出版　2025